

「破風岳登山(2)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

破風岳の景色の特徴は、「広漠たる山嶺」です。このあたりは上信国境(群馬・長野の県境)に位置し、四季を通じて風の通り道になり、冬は豪雪に見舞われます。また、残雪期には硬くなった雪が斜面をゆっくりと滑落し、春先に芽吹こうとした植物も根絶やしにしてしまうのです。その結果樹木が成長ほとんどできず、ただササだけが繁茂しているのです。



登山道から毛無峠方面を振り返った風景は、谷川岳の縦走路とそっくりです。谷川岳も標高 2000m に届きませんが、上越国境(群馬と新潟の県境)に位置し、破風岳と同じような気候なのです。



破風岳の登山道では、6月頃まで雪が残ります。これを「雪田(せつでん)」といいます。写真左側のモミの樹が、雪の圧力で左側(谷側)に傾いているのがわかります。倒壊して枯死する樹もあるのです。



「破風岳登山道より」(画; C.Tanaka)

山の画を描くとき、「見上げる構図」は楽ですが「見下げる構図」は難しいです。この画の場合、手前に岩を入れて遠近感を強調する構図にしています。

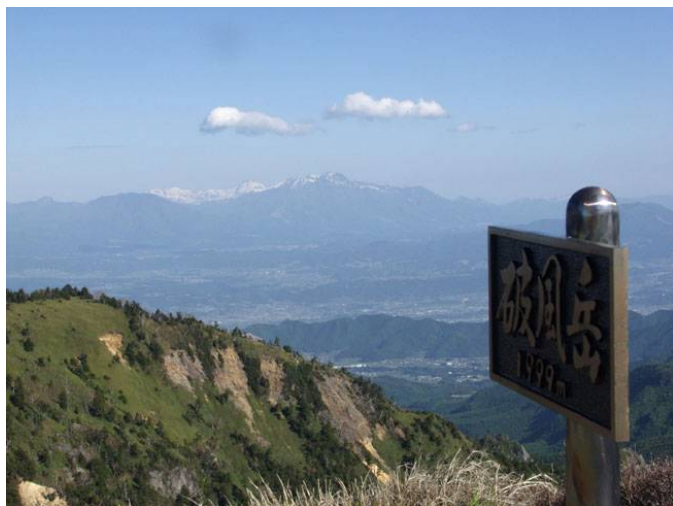


途中に1か所、分岐点があります。この場所には以前、「土鍋山(つちなべや) ↔ 破風岳」という道標があったのですが、今は倒れかけた柱だけになっていました。笹の中で、霧が出ると迷いやすい地点なので、次回は道標を持参して設置しようと思いました。



ほどなく山頂です。霧で何も見えません。この山頂(標高 1999m)には、1999年に設置された堂々たる山頂標があります。全金属製で、ポールには何度も落

雷に遭ったあとが残っていました。



破風岳は晴れるとこんな風景です。善光寺平（長野盆地）や北信（長野県最北部）の連嶺・・・妙高、黒姫、戸隠などが鮮やかに見えます。



山頂に立派な標識があることはわかっていたのですが、私も3Dプリンターで作ったのを持参しました。その上の誰かが設置したものは「破風山」と山名が間違っていました。



今回作ったのは、ヤマガラ の図柄入りです！この3Dプリンターの素材は「生分解性プラスチック」なのでいずれはなくなりますが、5～6年は持つでしょう。



ついでに、キーホルダーも作って、山頂に置いてきました。先着15名様！登山者の少ない山なので、まだ残っていると思います。お早めどうぞ！



山頂からは北側の絶壁を覗けます。谷川岳縦走路にある「ノゾキ」と同じです。ものすごい高度感！



【破風岳の登山データ】

- ・時間；55分（山頂での休憩含まず）
（登山約30分、下山約25分）
- ・累積標高差；約180m
- ・装備；軽登山靴、リュック、スポーツドリンク1L、レーション（行動食）、カメラ、山頂標、キーホルダー、電動ドリル、タオル、麻生さん帽子